

大豆小畦立て播種機のバージョンアップをしてみませんか？

【1 小畦立て播種機がより使いやすくなります】

尾輪やレーキスクリーンの装着、や取付けバーの強化、ブラケットの追加により、4条の小畦立て播種機がより使いやすく頑丈になります。

従来のスライドロール式播種機のほか、大豆でよく利用される目皿式播種機も利用できます。

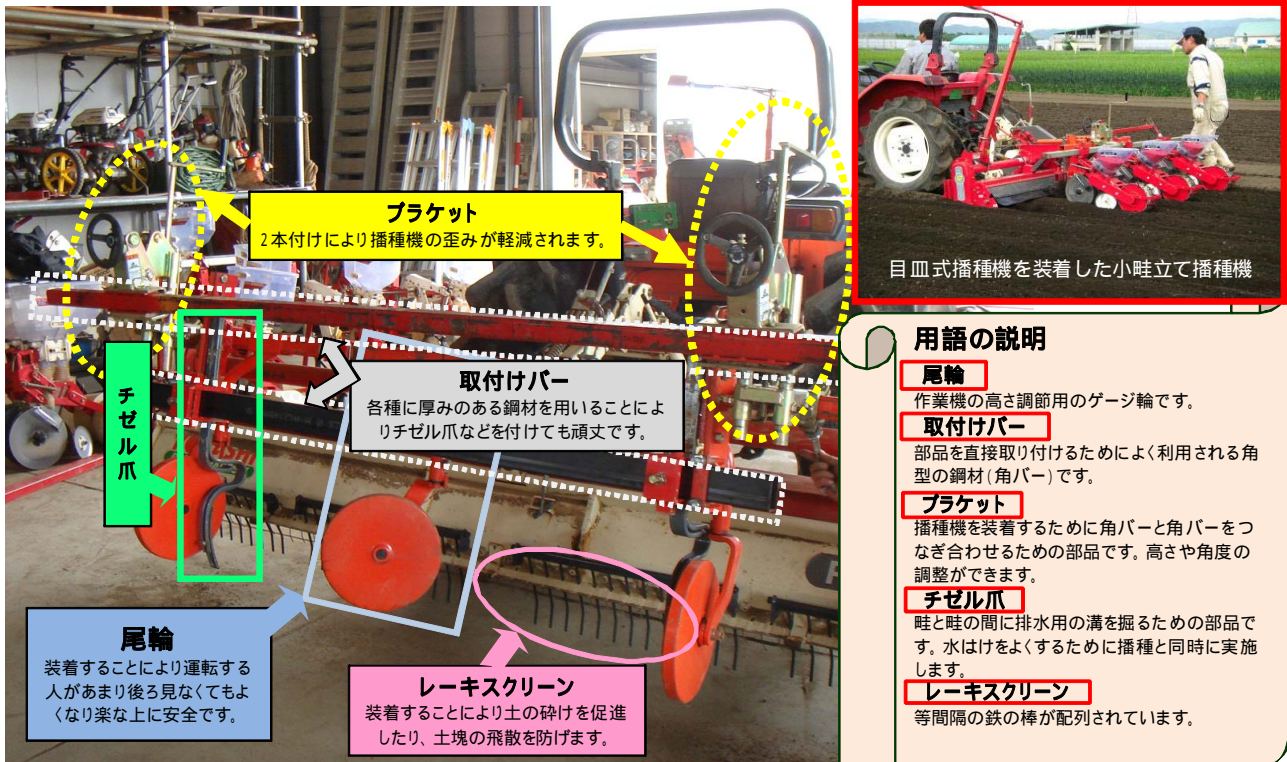


図 4条小畦立て播種機の改良ポイント

【2 改良機で作業能率もアップ!】

表1 改良型小畦立て播種機の作業性能

	改良機	(参考)従来機
実施年	2008年	2007年
播種機の条数	4条	4条
播種機の種類	目皿式	スライドロール式
尾輪の装着	有り	無し
レーキの装着	有り	無し
ブラケット	2本	1本
作業速度(km/時)	2.0~2.2	1.6~1.7
作業能率(時/ha)	2	4
畦高さ(cm)	9.1	8.2

目皿式播種機の利用と合わせると能率が2倍にアップ!!

表2 小畦立て播種機改良の際の追加費用試算例

	装着個数	単価(円)	費用(円)
尾輪	3	79,800	239,000
レーキスクリー	4	8,500	34,000
ブラケット	1	60,000	60,000
角鋼材4.5mm厚	3m1本	7,800	7,800
計			341,200

条数は4条、全部品新規購入で試算

15haで5年使うとすれば、1年で10aあたりおよそ450円の費用増加となりますが、全部新規購入せずとも、他部品の転用や自作部品で対応が可能なものがあります。

【3 適応対象】

県下全域の水田大豆生産農家等